

## 就任の挨拶



沖縄県医師会 監事 幸地 賢治

コロナ禍の慌しい時期に中部地区医師会の某先生より「県医師会の監事を引き受けてもらえませんか。」と声を掛けられた。監事の内容も知らないのに、「はい」と言ってしまった。これこそ失敗したというべきであったでしょう。一声を掛けた先生は途端に喜色満面となった。こんなに喜ばれると何か損をした様な気持ちになるのは私だけだろうか。色々と細やかな気遣いも出来る先生なので変な下心は無かろうと思いましたが、自分の顔色が変わらなかったかと心配になった位です。知力も体力も落ちた70才過ぎの老人に、この様な役職を仰せつかるとは思ってもいなかったもので、大いに驚きました。

という事で監事がどの様な役目かも確かめる間も無く引き受けてしまった。これで激しく後悔でもすればまだまともなのだろうが、それもなかった。明日出来る事を今日するな主義の塊なのである。一時期10年弱県医師会の理事を

していた事があったので、それも慢心の原因になったのであらうと思います。理事を辞めた後の楽しみは一生懸命に立ち働き、沈黙考している現役の理事の先生に暇そうに無駄話で絡んだり、拳句の果てに手帳を取り出し予定がない事を自慢してみたりして、相手が腐のをほくそ笑んだりしていた事を憶えている。何という浅はかな事をしたのかと反省しきりです。

監事になって驚いたのは毎週定例の会議があり、1週間に1度の会議とはいえ、今まで何も無かった事を思うと大きな重荷に呻吟しています。慣れるのには時間がかかるでしょう。任期は2年との事ですが、2年後には監事がどの様な職務であるか、ユーモアを持って説明できるかと思えます。以前に比べ体力も知力も落ちて来ているので、皆様の期待にどの程度応えられるか、甚だ心許ない事ではありますが頑張ります。

